

地域医療研修レポート

名古屋市立大学研修医

地域医療研修として1ヶ月間研修させていただきました。新城市民病院は急性期病院と慢性期病院両方の側面を担っている病院なのだと感じました。豊橋市民病院や豊川市民病院から頸部骨折などでリハビリが必要な患者の入院を受け入れ、在宅や施設に移るまでの支援を行っていた。一方新城市民病院より北にいくと大きな病院がなく、山奥からかなりの時間をかけて救急車で運ばれてくる方もいます。内科疾患に始まりCPAや交通外傷などの様々な救急車を受け入れていらっしゃるのが印象に残っています。

研修は総合内科の外来と病棟管理が主でした。予診をとった患者について毎日カンファランスと担当のオーベンからのフィードバックがあり勉強になりました。OPQRSTの基本的な問診法を再認識し、救急外来ではあまり意識していなかった「なぜ患者は今日病院にきたのか」や解釈モデル、生活背景などを問診することの大切さを学びました。また山奥から病院まで何時間もかかり、何度も病院を受診することは難しい方もいます。普通ならば経過観察でよい症例でも1回の診察で終わるように検査が必要になることもあり、患者の環境ごとに最適なプランを提供しているのも地域医療ならではのなと感じました。病棟管理でも肺炎、心不全、胆管結石、脳梗塞、脳出血など総合内科に幅広い疾患が入院していました。どこの科にも振れない科をみるとというのが、総合内科のイメージでしたが新城市のような地域では専門科がないため、総合内科の果たす役割が大きいのだと感じました。病棟管理で驚いたのは心不全などの入院になった理由疾患の治療だけを行うのではなく、ワーファリンとの飲み合わせが悪い薬を変更したり、余分な薬を中止するなど全身をマネージメントしているのが印象的でした。

名郷先生から教えていただいた論文の探し方・読み方、医療倫理の考え方も勉強になりました。地域連携の方や老健施設の方から話を聞け、退院後の各施設の役割の違いについて深く知れたのも貴重な経験となりました。訪問看護・リハビリでも在宅医療の現状を経験でき有意義でした。1ヶ月と短い間ですが私のためにお時間を割いていただき、皆様丁寧に指導していただき本当にありがとうございました。